

敬和会と地域をつなぐ広報誌【リンク】

Link

vol.13 秋号

take free

ご自由にお持ち帰りください



KEIWAKAI

特集

在宅支援クリニックすばる
高齢者の急変時に対応する在宅医療



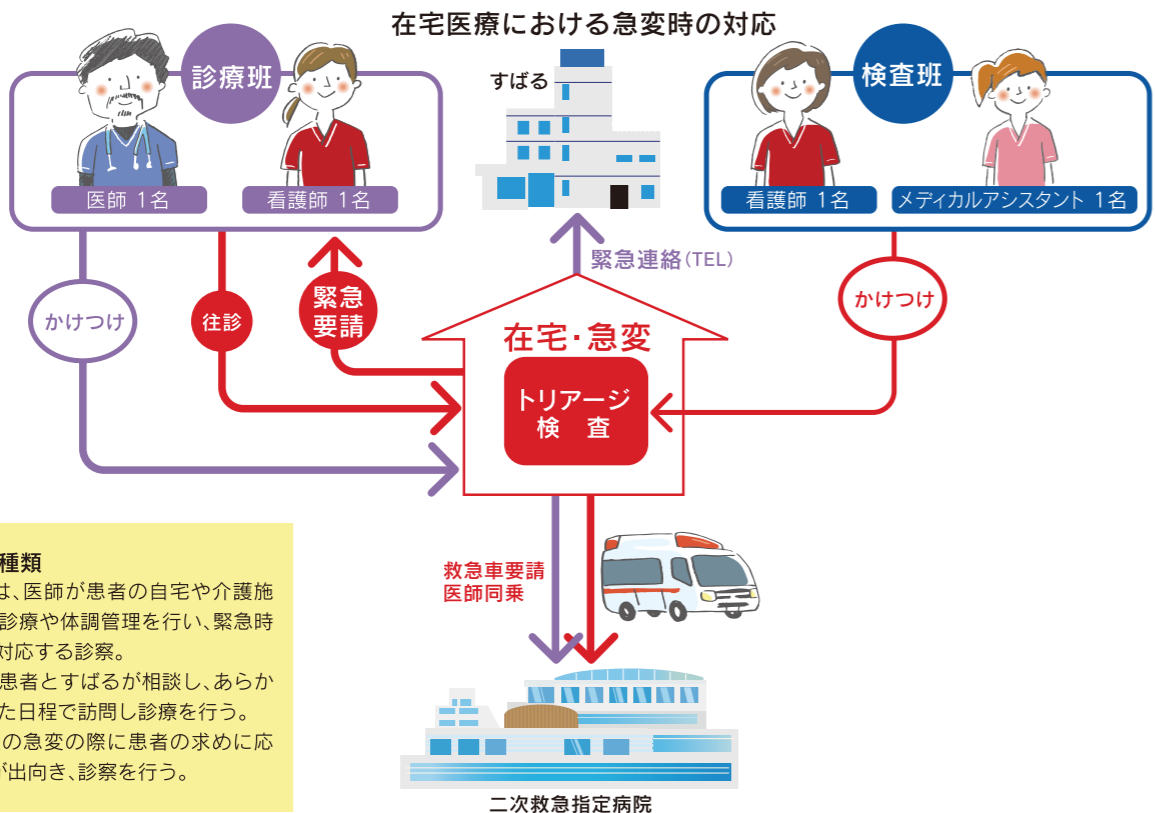
高齢者の急変時に 対応する在宅医療

大分県では、「めざせ！健康寿命日本一おおいた」を掲げています。ずっと元気で健康な毎日を送ることは理想ですが、高齢になると病気になることも多く、病院にかかることや入院になることも少なくありません。

入院も、長期になればなるほど、住み慣れた家に早く帰りたいという想いは募ります。その想いを叶える一つが在宅医療です。

「在宅支援クリニックすばる」の活動と体制

日本がすでに足を踏み入れているや看護師などが訪れる、訪問診療と往診を主体としたクリニックです。すばるの姫野浩毅院長は、救急科専門医の経験を活かし、「在宅トリアージ（在宅における緊急性の有無を判断すること）」を取り入れ、患者さんの状態の判断



在宅医療の種類

在宅医療とは、医師が患者の自宅や介護施設を訪問し、診療や体調管理を行い、緊急時にも24時間対応する診察。

- 訪問診療…患者とすばるが相談し、あらかじめ計画した日程で訪問し診療を行う。
- 往診…病状の急変の際に患者の求めに応じて、医師が出向き、診察を行う。

断を行っています。

これまで、在宅医療のプレホスピタルケア（病院へ運ぶ前に行う応急手当て）の仕組みづくりを模索するなか、在宅患者の急変に対し、在宅トリアージの採用と、迅速な治療を可能にするための「診療班」と「検査班」の2チーム体制で診療に取り組んでいます。患者側からの緊急連絡がすばるに入ると、診療班が直ちに往診できない場合は、先に検査班が向かい、在宅トリアージと、医師の指示が必要な検査を行います。緊急性が高い場合は、診療班に連絡し、10分程度で駆け付けます。重症化が予想される患者さんは、速やかに救急搬送先の病院を選定し、救急車を呼び、二次救急指定病院へ搬送します。

緊急連絡の中には、緊急性の低い安易な救急車の要請や、延命処置について本人の意思とご家族の思いが不明確なケース、施設の療養者情報が不十分といったものもあり、在宅トリアージのシステムの必要性が高まっています。

※2025年問題約800万人いるとされる団塊の世代が後期高齢（75歳以上）になり、超高齢化社会へ突入する問題。

在宅救急医療の仕組みづくり

在宅トリージの流れ

在宅医療を受けている患者さんの急変症状には、呼吸困難や嘔吐・下痢、急性腹症などがあり、確定診断が必要な場合は、病院への搬送を直ちに判断しなければならず、迅速な対応が求められます。すばるでは、急変の際、バイタルサイン（体温・呼吸・血圧・脈拍などの状況）の確認とトリージをまず行います。緊急と判断した場合は、救急車の要請を行い、必要に応じて医師が同乗し、二次救急

指定病院に患者さんを搬送します。到着した病院で予め用意しておいた患者さんの背景や施設環境、病状などの情報を提供し、スムーズに引き継ぎを行っています。すばるが受ける緊急連絡は、介護施設が大半を占めています。その時、重要になるのは、日ごろから患者さんに接している介護施設の方々からの情報です。そのため、医師側への確かな状況報告ができる、風通しの良い関係づくりを大切にしています。



ケアマネジャーとの情報共有

すばるでは、「いつでも気軽に相談できるクリニック」を目指して、月に2回、患者さんを担当するケアマネジャーとの定期面談を行っています。患者さんの医療・介護、ケアプラン等について相談を受け、患者さんにとって最善の治療法を一緒に考えています。ここを情報交換の場としながら、コミュニケーションを図っています。

介護職員の教育

また、地域の介護施設の職員が患者さんの症状を见的確な判断ができ、高齢者特有の病態に対して医療側との共通認識を持つために「寺子屋すばる塾」を開催しています。参加者の中には、「患者さんの日ごろの観察や視点が変わり、目的意識を持って仕事に活かすことができる。自信を持って対応できるようになった。」という声が増えてきました。介護施設の職員が状況を把握し、医師へ正確な情報を提供することで在宅トリージの判断材料となり、実践の中で役立っています。この他にも、退院時に患者さんの状態などを引き継ぐために、多職種ス

タッフがこれからの治療や介護の方針等を考えていく場に積極的に参加し、在宅チームの支援強化を図っています。

すばるは、患者さんに関わる医療側・介護側両方のプロフェッショナルが情報を密にし、患者さんやそのご家族にとって安心して暮らせる場所提供最善の治療法を提供し、急変時にもすばやく対応できる在宅医療を目標としています。今後も医療と介護、そして地域全体が協同で取り組める包括的なケアに取り組んでまいります。



寺子屋すばる塾



脳・脊髄の病気と治療を知る

2018年4月、脳・脊髄関連の疾患の外科治療を専門とする戸井宏行医師が着任し、「脳神経外科」が再スタートしました。脳と脊髄に関する病気や治療法、今後の展望などを伺いました。

脳と脊髄について

日本においては、多くの病院で脳神経外科が「脳の診療」を、整形外科が「脊髄の診療」を行っています。しかし、



脳と脊髄はどちらも「中枢神経」であり、密接に関係した臓器です。当院の脳神経外科では、欧米のように脳と脊髄を同時に診療できる体制をとっています。

神経の病気による症状は、頭痛、めまい、手足のまひ、しびれ、痛み、歩きにくさ、しゃべりにくさなど多彩ですが、これらを専門医が診察して確認し、MRIによる画像診断でリアルタイムに症状の原因を突き止めることが可能です。

治療としては、一般的な脳疾患に加え、脊髄疾患（頸椎症、腰椎症、椎間板ヘルニア、脊管狭窄症）のほか、※1キアリ奇形、※2脊髄空洞症などへの対応が可能です。また「手や足の難治性疼痛（治りにくい痛み）」に対する先進的な治療である「脊髄刺激療法（脊髄に微弱な電気を流すことで痛みを和らげる治療法）」にも力を入れています。

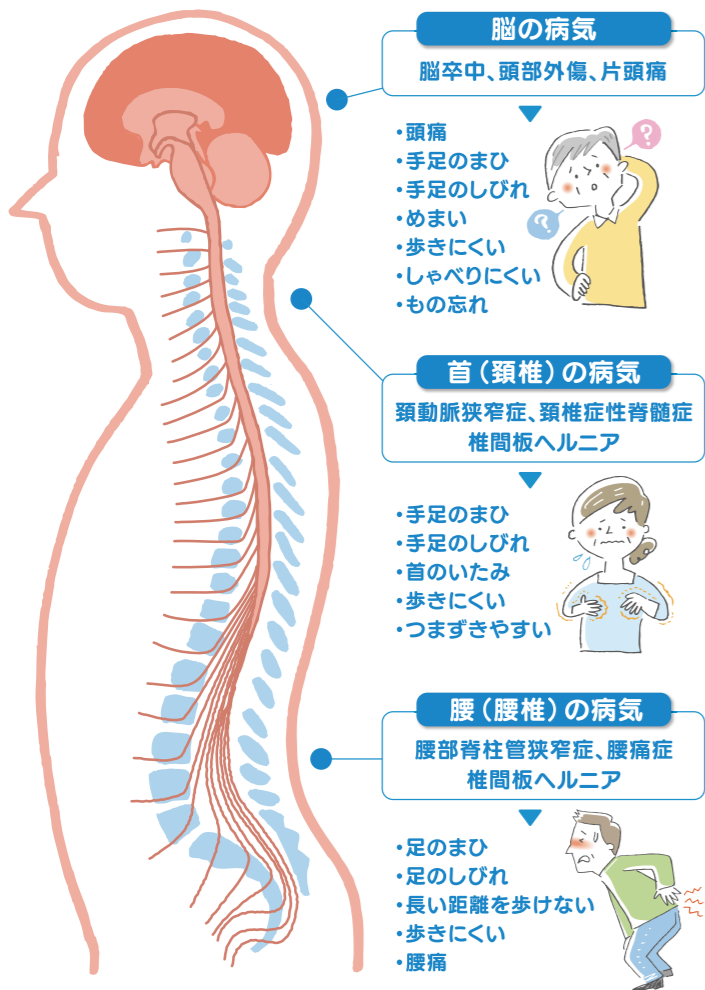
大分市東部地区における脳卒中診療

脳卒中診療は時間との戦いであり、発症後一刻も早く治療を開始する必要があります。しかし、大分県では脳卒中の患者さんが遠くの病院まで救急搬送されるケースが多くみられ、不利な状況といえます。

当院では、2018年4月より脳卒中治療の主軸となる血栓溶解薬（脳梗塞など血管内に詰まった血の塊、血栓を溶かす薬）の投与やカテーテル治療が可能となり、大分市東部地区にお

いて、より一層、脳卒中患者さんの受け皿が増えた状況となりました。近隣のクリニックや脳外科病院、大学病院、回復期リハビリテーション病院などと密に連携をとっており、超急性期から慢性期まで万全の体制が整ったといえます。当科は脳・脊髄の神経および脳・頸部の血管の疾患に対して、幅広く対応することをモットーとしています。図に示すような症状が気になる方は、脳神経外科にご相談ください。

※1 キアリ奇形 生まれつき小脳の一部が脊髄管に落ち込んでいる状態。
※2 脊髄空洞症 脊髄を保護する脳脊髄液が脊髄の中に溜まって空洞ができたような状態。



介護職のスキルアップを目指して

超高齢化社会が進む中で、介護職の人手不足の波はどんどん広がっています。その中でも介護福祉士は介護業界を支える職業として大きな期待を寄せられています。

今回、参加者が楽しく、気軽に発言でき、知識や技術を共有できる場として「わたしたちの介護自慢大会」と命名した、介護の取り組みを紹介しします。大分リハビリテーション病院の介護福祉士と看護師、そして日本文理大学の助教で高齢者福祉を研究している栗延孟先生が中心となり企画・運営している勉強会です。法人内の介護福祉士と大分市東部地区の介護施設の職員、そして日本文理大学で将来介護職を目指す学生を交えて、2018年4月から開催しています。

介護の現場では、さまざまな問題や悩み事を、各職場の介護職がそれぞれの経験や技術、実践を通して独自の視点で解決しています。本会は、介護に携わる人が事例や経験を共有し、議論する機会を設け、介護職全体の専門性を高めることを目的に開催しています。第2回の介護自慢大会では、アロマ



を使用して睡眠が良くなった、転倒が心配でシャワー浴だけだった方が入浴できるようになった、体重が増加しADL(日常生活動作)が低下した方がダイエットに成功したなどの事例発表がありました。

その中からダイエットに成功した例を紹介します。患者さんの目標「体重の減少」を達成するため、介護福祉士

がダイエットを提案。しかし患者さんは納得していない様子でした。そこで、どんな生活を送りたいかと尋ねると、『健康で過ごしたい』との返答。『では健康で過ごすためにダイエットをしませんか』と提案したところ、ダイエットを最終目標から、健康な生活のための手段へとアプローチを変えただけで、患者さんの意識が変わりました。視点を

変え

てアプローチする一例ですが、介護をする上でのヒントになったようです。

これからも、事例発表や困っている問題などの議論の場を設け、介護職の専門性を高める活動を継続してまいります。今後は、大分市や大分県内外へ地域を越えて、さらにこの活動を広げていきたいと思えます。



日本文理大学 経営経済学部 経営経済学科 くりのふたけし 栗延 孟 助教

「介護福祉士の専門性を高めるために、まず何をしなければいけないのか。」

私は特別養護老人ホームで介護職をしていた経験から、これまで一貫して高齢者に関わる研究を行っています。その中で、上のような問いが常に頭の中にありました。

専門性を高めるためには、さまざまな知識・技術を蓄積していかなければいけません。実際に介護に関わる学会に参加しても、現場の介護職による発表はほとんどありません。そこで、介護職独自の視点による経験や技術、実践を共有できる場をつくる必要だと考えました。

介護自慢大会は、気兼ねなくお互いの取り組みを自慢する場です。他の参加者の自慢を聴くだけでも構いません。できるだけ多くの介護に関わる方に、参加していただければと思っています。



大分有料老人ホーム 緑の樹 看護師兼管理者補佐 かずよし 甲斐 万予思

介護自慢大会はお堅い症例発表ではなく、和やかな雰囲気で行われるので、聞く側、発表する側どちらも楽しく参加することができました。施設の職員も症例発表の機会があることで、自分たちの介護方法を改めて見直せました。また、職場や職種を超えた横のつながりが広がり、困ったことなど相談しやすい環境ができたと思います。

介護自慢大会を通して、学んだ知識や他施設とのつながりを大切にして、今後の業務に活かしていきたいと思えます。

介護の未来 ロボットが活躍する時代

介護現場の改革

2013年6月、政府がロボット介護機器の開発・導入促進に戦略的に取り組むことを発表すると、経済産業省と厚生労働省は「ロボット技術の介護利用における重点分野」を策定し、介護ロボットの開発支援に踏み出しました。

大分豊寿苑では、「利用者の自立支援に役立つ」、「介護従事者の介護負担の軽減を図る」、「より安全で効率的な介護の提供」を念頭に、導入に取り組んできました。

ロボット導入に向けての取り組み

これまでに「ロボットスーツHAL®」、「歩行アシスト」、「コミュニケーションロボット『パロ』」、「ロボットアシストウォーカーRT・2」、「見守りカメラ」を導入し、そのほかにも移乗ロボットや介護支援用HAL®などを試用してきました。

2018年9月に、おおいた産医療関連機器導入推進補助事業で「車いす用着脱式足こぎユニット『こいじゃる』」

る！」と「HAL®腰タイプ自立支援用」を導入しました。「こいじゃる！」は、既存の車椅子に着脱式の足こぎを取り付け、足こぎ車椅子として使用できます。また、「HAL®腰タイプ自立支援用」は、利用者が腰に装着して、体幹訓練や起立訓練をサポートするロボットです。これらの機器を用いることで、利用者の活動能力や意欲が向上し、楽しく、いきいきとした生活ができ、より一層の自立につながると考えています。



歩行アシスト



車いす用着脱式足こぎユニット『こいじゃる!』

先進的な介護の未来へ

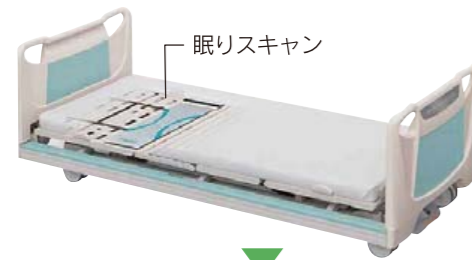
2018年9月の電子カルテの導入で、法人内の患者・利用者情報を共有することが可能となり、医療と介護の連携強化を図っています。

これらの共有情報をデータ分析し、「効果のあった介護」を取り入れていくことで、科学的介護の実践に活用できると期待しています。

さらに2018年10月から新たに介護ロボット「自動体位変換エアマットレス」と「眠りスキャン」を導入しました。「眠りスキャン」は、マットレスの下に設置

したセンサーが体動(寝返り、呼吸、心拍など)を測定し、睡眠状態を把握します。利用者の動きを感じし、予測できない行動を察知して知らせることで、必要な時に介護の提供ができます。また、介護する側の見回り回数が削減でき、より安心な見守りとタイムリーな介護をサポートしてくれます。

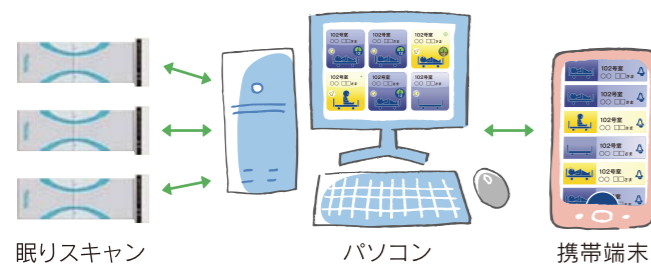
大分豊寿苑では、AIとの共存も視野に入れ、先進的な介護のカタチを確立しながら、新しい介護の未来を切り開いていきます。



利用者の動きを感じし、予測できない行動を察知。



リアルタイムモニターで一覧表示。より安心な見守りとタイムリーな介護が可能に!



眠りスキャン

パソコン

携帯端末

管理栄養士のおもてなしの心

佐伯保養院の患者さんは、精神科疾患のため治療に時間を要し、入院期間が極めて長く、1年を超えることもあります。このように長い入院生活は、日常生活にメリハリがなくなり、患者さんの社会とのつながりが希薄になってきます。栄養課では、食事を通して、入院患者さんの健康維持や回復、早期の社会復帰を目指し、また、四季を感じ、楽しく食事をしていただけるよう努めています。

例えば、お正月にはおせち料理、ひな祭りにはちらし寿司など、行事ごとにちなんだ料理を提供します。食が進むように色鮮やかな配色や、噛む力の弱い方のために、海苔巻きではなく、卵巻きにするなどの工夫をしています。

- 【お正月】おせち料理とお刺身
- 【ひな祭り】ちらし寿司と桜もち(手作り)
- 【お花見】お花見弁当と茶碗蒸し
- 【みどりの日】茶そば
- 【端午の節句】お稲荷と巻きずし
(海苔巻きでなく卵巻きです。窒息予防のため)
- 【母の日】豆ごはんとお煮つけ
- 【七夕】そうめんと西瓜

- 【土用の丑の日】うな丼
- 【敬老の日】赤飯
- 【秋分の日】おはぎ
(小豆餡ときな粉餡、手作り)
- 【運動会】運動会お弁当
- 【クリスマス】フライドチキンとエビフライ、ケーキ
- 【大晦日】年越しそば

当院は、患者さんの家庭復帰、社会復帰に鋭意努めています。しかしながら、復帰に時間を要する患者さんがいることは否めません。患者さんに移り行く季節を感じ、1日でも早く退院して社会復帰していただくために、栄養課ではさまざまな行事食を考案して、提供しています。



お正月

お花見弁当

敬和会管理栄養士の とっておき レシピ

生姜シロップ with ミルクプリン



エネルギー110kcal / 塩分0.1g

シロップはまるやかさと味に深みを出すため、煮込む前に生姜に黒砂糖をまぶして置いておくのがポイントです。温かい紅茶に入れるのもおすすめ。血行が良くなり、体も心もほっかぽか。



管理栄養士
中野 はるひさん

- 【作り方】
- 1 生姜の皮をむき、繊維に沿ってスライスする。
 - 2 鍋に1を移し黒砂糖をまぶし1時間おく。
 - 3 ローリエ、水を加え中火でアクを取りながら10～15分煮込む。
 - 4 火を止め、最後にレモン汁を加えて冷ます。

- 【生姜シロップ 材料】
200ccカップ1杯分
- 生姜 100g
 - 黒砂糖 100g
 - ローリエ 1枚
 - 水 150ml
 - レモン汁 小さじ1/2杯

- 【作り方】
- 1 ボウルに①の材料を入れ軽く混ぜる。
 - 2 レンジで1分40秒加熱し材料を溶かす。
※沸騰させないように注意する。
 - 3 容器に流し入れ、冷蔵庫で冷やし固める。

- 【ミルクプリン 材料】
4人分
- 牛乳 400ml
 - ① 砂糖 大さじ2杯
 - ゼラチン 小さじ2杯

【ジンゲロール】生の生姜に含まれ、血管を拡張させ血流を良くし、肩こりや頭痛の改善、体を温め免疫力を高める働きがあります。

【ショウガオール】ジンゲロールが加熱されてできる成分で、殺菌・抗酸化作用が高く体の老化防止に効果的です。

生姜の
辛味成分





左から 佐藤祐司さん、志水寛さん、安部泰史さん

この街・この人

空き家を活用して鶴崎子ども食堂を運営している安部泰史さんと、ご協力いただいている「鶴崎校区ご近所の底力」の皆さんにお話を伺いました。

安部 泰史さん

昭和19年生まれ74歳。元大分市議会議員で、現在、鶴崎踊り保存会会長を務め、大分市の地域多世代ふれあい事業の推進と鶴崎地区の子ども食堂の運営に携わっている。



—子ども食堂を始めたきっかけを教えてください。

毎月第4日曜日に、大分市の乙津川で、親子でカヌーに乗って遊ぶという活動を行っています。あることに気付きました。昼食を用意しておらず、食べていない子がいたことです。事情は分かりませんが、きちんと食事をしていない子どもがいることに驚きました。それなら子どもたちが誰でも気軽に食事ができる食堂を作ろうということで、2016年2月に子ども食堂を始めました。今では、地域の方々の応援と協力をいただき、子どもたちを笑顔にする場所ができました。さまざまな事情で満足に食事ができない子どもたち(小学生)に、「カレーある?」と、近所のおばさんの家に遊びに行く「昭和的な感覚」で気軽に来てほしいですね。

—どのような活動を行っていますか。

子どもに食事を提供することはもちろん、高齢者のいきがい対策として、高齢者と子どもたちの交流の場「多世代ふれあい子ども食堂」としても活動しています。大分市からの要請で、第二・第四金曜日の夜に行っていますが、小学生の子どもたちが宿題をしている間に、老人会のメンバーがカレーを作り、できたカレーと一緒に食べながら会話をしています。

また、17時〜19時の部活時間を利用してボランティアの高校生が子



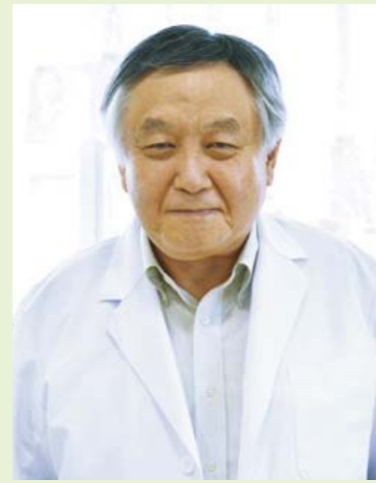
鶴崎子ども食堂

大分県大分市鶴崎352-1 TEL:097-527-3853
開催日/子ども食堂:第1、第3土曜日 11:00~13:00
多世代ふれあい子ども食堂:第2、第4金曜日 17:00~20:00



—子どもたちへメッセージをお願いします。

子ども食堂を、食べることだけでなく、居場所作りとしても活用して欲しいです。手を差し伸べたい子が遠慮なく来てくれる場所になることを望んでいます。あそこに行けば皆で楽しく食事ができるという、そんな気軽な食堂になればと思います。美味しいカレーを作っていますので、ぜひ来てください。



ON TIME 私の OFF TIME

頼れる地域のドクターの意外な一面!

大在呼吸器アレルギークリニック

院長 北川 和生先生



秋の夜は、バロックを聴きながら

大在に開業して16年が過ぎました。以前、大分岡病院と大分医療センター(国立大分病院)にお世話になったことがあるので、20年くらい大在・鶴崎地区にいたことになりました。なかなかまとまった時間が取れず、家にいるときは音楽を聴くことが多く、若い頃から好きだったバロック音楽をCDで聴いています。

バロック音楽は300年くらい前の音楽で、バッハ・ヘンデル・ビバルディといった古い堅苦しさがある音楽家が作曲した音楽です。バッハ・ビバルディは宗教音楽、ヘンデルはオペラが中心で、テレビのコマーシャル音楽にも使われているので、聞いたことがあるかもしれません。中世・ルネッサンスからの伝統音楽を引き継いで、後の古典派のモーツァルトやロマン派のベートーベンなどへの音楽にバトンタッチしたような音楽家たちです。

バッハは元来が宗教音楽家なので難しい曲が多いのですが、『G線上のアリア』や『ブランデンブルグ協奏曲』などは比較的聞きやすい曲です。ビバルディも宗教音楽ですが、『四季』で代表されるように聞きやすい曲も多く作っています。早い・遅い・早い楽章のソナタ形式を確立した音楽家です。当時のイタリアは芸

術の先進国で、オペラ・絵画・彫刻などはイタリアが最高だと言われています。

ヘンデルは、元々ドイツの出身ですが、イタリアに留学して当時の本場のオペラを学んだ人です。宗教音楽とは異なって、オペラやその他の聞きやすい曲を作っています。3人はそれぞれ活躍するジャンル・場所が違い、バッハはドイツの生まれで一生ドイツにいました。ヘンデルはドイツに生まれイタリアで学びイギリスで活躍しました。ビバルディはイタリア生まれでイタリアのベネチアで活躍しました。三人三様の人生ですが、彼らによって現代に続く音楽が準備されたのです。ということで、秋の夜は、バロックを聴きながら…。お酒が飲めないので、コーヒークリームかな?

大在呼吸器アレルギークリニック

〒870-0251 大分市大在中央1-12-5
TEL.097-592-5666

診療科目 呼吸器科・アレルギー科・内科
診療時間

月曜～土曜日	午前 9:00～12:30
	午後 14:30～19:00
※火曜日の午後	15:00～19:00
土曜日	午後 9:00～12:30
	午後 14:30～17:00

休診日 木曜午後、日曜・祝日

社会医療法人敬和会



大分岡病院

大分岡病院

〒870-0192 大分県大分市西鶴崎3-7-11
TEL.097-522-3131(代)
TEL.097-503-5033(コールセンター)
FAX.097-503-6606



大分
リハビリテーション病院

大分リハビリテーション病院

〒870-0261 大分県大分市志村字谷ヶ迫765番地
TEL.097-503-5000(代) FAX.097-503-5888
敬和会健診センター TEL.097-503-5918



介護老人保健施設
大分豊寿苑

大分豊寿苑

〒870-0131 大分県大分市皆春1521番地の1
TEL.097-521-0110 FAX.097-521-1247



在宅支援クリニック
すばる

敬和会すばる

〒870-0147 大分県大分市小池原1021
TEL.097-551-1767 FAX.097-551-1722



佐伯保養院

佐伯保養院

〒876-0814 大分県佐伯市東町27番12号
TEL.0972-22-1461 FAX.0972-22-3063

敬和会 Topics

参加無料 第7回ハートアタック(心臓発作)救命教室 開催!

冬場の寒い時期は要注意! 暖かい部屋から寒いトイレに行く。急激な寒暖差によって引き起こされる心臓発作は、ある日突然起こります。倒れている人は家族かもしれません。そんなとき、救命処置やAEDの使い方を知っていれば、助かる命があります。いざ! という時に対応できるように何度でも訓練を行いましょう。

【日時】2019年2月16日(土) 午後1時30分~3時30分(午後1時開場)

【場所】コンパルホール3階 多目的室

【定員】60名(定員になり次第受付終了)

※事前申込みが必要

【問い合わせ】☎097-522-3131(代)

月~金 午前8時30分~午後5時

大分岡病院(戦略広報室 合澤・岡田)



「子宮頸がん検診」敬和会健診センターで受けられます

これまで委託医療機関で行っていた子宮頸がん検診が、2018年10月から敬和会健診センターでも受けられるようになりました。子宮頸がんは、20代など若い世代の増加傾向が懸念されていますが、早期に発見できるがんです。定期的な検診をお勧めします。また、委託医療機関でも今まで通り検診が受けられます。

敬和会健診センター

子宮頸がん	月	火	水	木	金	土
午前	—	●	●	●	—	—

【委託医療機関】

つるさきクリニック、貞永産婦人科、

さゆりレディースクリニック

※子宮体がん検診や経膈エコーなどを併せて希望される方は、委託医療機関での受診となります。

【予約】敬和会健診センター ☎097-503-5918(午前9時~午後5時)

別保あんしんサポートセンター 教室案内

大分豊寿苑では、どなたでも気軽に利用できる多目的交流スペース「別保あんしんサポートセンター」を開設しています。センターでは、排泄の相談窓口や認知症カフェ、各種教室を開催しています。お気軽にお問い合わせください。



【手芸教室】毎週月・水曜 午前11時~午後3時

【クラフト教室】第1・3木曜 午後1時~3時

【料理教室】第1・3金曜 午前10時30分~午後1時

【フラワーアレンジメント教室】木曜 午前10時30分~正午

【認知症カフェきちよくれ】第2・4土曜 午後2時~4時

【ミニむつき庵ほほえみオムツ相談】※予約制

【問い合わせ】大分豊寿苑(相良) ☎097-521-0110